

花の歌 歳時記

前田康子

文化祭が終わった日、もう会えないと書かれた短い手紙が届いた。何故…という想いが身体中を駆け巡った。

会いに行くと、彼は髪形を変え、見たことのない新しいジャンパーを着ていた。何を聞いても答えない、ポケットに手を入れて困ったような顔をした彼が立っている。これ以上何をしてもこの人は戻って来ない。

土手の道を通って家に帰った。秋の終わりの風が遠くから吹いてきて、遠くへ消えて行く。いつも面影を抱いて歩いていたこの道が別の道に見えてくる。走ろうとしても全身の力が抜けて走れない。

家に帰って、制服を着替えようとすると、草の種があちこちについている。尖ったアメリカセンダングサの種や、ヌスビトハギのべたべたした種だった。坐り込んでとっていると、種は未練がましくしがみついている私のようだった。



龍胆

山の紅葉が真っ赤に色づく頃、足元には静かに龍胆が咲いている。京都の東山の寺には大勢の観光客が訪れて、皆シャッターを切るのだが、紅葉の美しさに圧倒されてか、龍胆を写しているひとは滅多にいない。

花屋では時々、花がたくさんついた茎の太

りんどう 龍胆

いゴージャスな龍胆を見掛けるが、これはエゾリンドウという種類の栽培種であるらしい。

りんどうの匂へる山に入りにつけり二たびを来む吾ならなくに

斎藤茂吉「白き山」

茂吉、六十六歳。山形の大石田という所に疎開していた。もうすぐこの町を去り、心は

半分東京にありながらも、最上川をはじめ大石田の、豊かな自然を詠んだ。

龍胆の花活けをれば先の世も後の世もひとり棲むかと思ふ

大西民子「印度の果実」

小さな一輪挿しに龍胆を活けたとき、自分という生身の孤独がくつきりと浮かび上がった。

事務的に葬花くみ合はせるる花舗よ買ふりんどうの茎も秋なり

生方たつゑ「北を指す」

龍胆の茎は錆びたような赤みを帯びていて、それが秋の切なさを感じさせる色である。りんどうという音の響きは口にすると、はずし忘れた夏の風鈴が、秋に鳴るような寂しさがある。

こんなにも寂しい母の枕辺にだれが活けたのか白い龍胆

原 秀子「乳草」

八十歳にして乳癌の手術をした母を看病しているときのうたである。青白い龍胆を、眠っている母のベッドに誰かが活けて帰った。その青白きは病者の辺には置いて欲しくなかった色だったのでろう。





石路

もう肌寒くなり、咲いている花も少なくなってきたと思う頃、庭先に石路の黄色い花を見かけるとはつとする。葉はつやつやと大きく、茎もしっかり太く、明るい黄色い花をつける。種子は綿毛をつけるので一見巨大なっぽのようでもある。

石路は本来は、海岸の崖に咲く花であるらしい。黄色い花が海の青さに映えたと、いっそう鮮やかに見えるだろう。

秋草のしどろが端にもものしく生を榮
ゆるつはぶぎの花

伊藤左千夫 左千夫歌集

寂しげな秋の草花のなかでひとときわ目立つ
石路の花。冬がくるまでの日だまりのように、
暖かい色をしている。

つはぶぎの花に日しながめらかにかく
ありありと匂うつりある

真鍋美恵子 雲熟れやます

暖かい陽がさしている日であれば、首の長い
石路は影を落として、日時計のように見える。

夜の雪に倒れし石路が曇日のいちにちか
けて花擡げゆく

柏崎驍二 月白

柏崎驍二は盛岡の歌人である。倒れてもまた
た起き上がって咲く花はよくあるが、一日か
けて起き上がるといふところ、ぐぐつと茎が
立ち上がるような姿が目に見えてくる。石路
は雪の冷たさにも強い花だと知った。



つわぶぎ
石路

枇杷の花

枇杷の木を植えると家に病人が出るという俗説がある。しかし枇杷の木はどこの町に行っても見かける木だ。花が咲き、花の蜜を吸う鳥が来、新しい葉が出て、実が生る。実を

求めてまた鳥たちが来る。枇杷の木が一本そばにあるだけで季節の移ろいがわかる。

苦しみて生きつつをれば枇杷の花終りて
冬の後半となる

佐藤佐太郎『帰潮』

『帰潮』の冒頭の一首。佐太郎の書齋から



枇杷の花

は枇杷の木が見えたようで、しばしばうたわれている。枇杷の木は陰気な木である。花も近づいて見なければわからない小さな花である。しかし他の木とくらべて、人の生活に寄り添って生きている木に見える。

復讐心さらに研ぐべし研ぐならば、青天
に枇杷花をかかげて

阿木津 英『天の鴉片』

枇杷の木はじつと耐えているような木である。台風が来たとき、暴風雨のなか、ぎいぎいと音をたてて立っている一本の枇杷の木があった。その音がこのうたのような復讐めいた音だった。

貧しさを嘆くころも年年に移らふもの
か枇杷咲きにけり

若山牧水 朝の歌

「また百舌がきてるなあ。」ご飯を食べながら、枇杷の木の方に耳を傾ける父の姿を思い出す。「そろそろ炬燵を出そうかね。」そういう日は決まって母が、家族にこう聞くのであった。